

# 気づきの質を高めるための授業づくり

—体験活動と表現活動の相互作用—

生活科研究会議

研究員 朝日 理恵 (川崎市立長沢小学校)

田谷 麻美 (川崎市立下平間小学校)

谷間 亮太 (川崎市立平間小学校)

指導主事 大野 恵美

## I 主題設定の理由

生活科における気づきとは、小学校学習指導要領において「体験を通すことで得られる新たな認識のことである。この認識には科学的な見方や考え方などの知的な側面だけでなく、親しみや探究心といった情意的な側面も含まれている。」とされている。生活科ではこの気づきの質を高めていくことで活動や体験の一層の充実を目指している。子どもの気づきの質を高めていくためには無自覚だった気づきが自覚されたものになること、一つ一つの(個別的な)気づきを関連付けられるようになること、物や事象など対象への気づきから自分自身のことについて気付くようになることが大切である。このように高められた気づきは達成感や充実感、自己有能感などを得ることにつながり、それが次の活動の動機付けになっていく。しかし、単に活動や体験を繰り返していれば気づきの質が高まっていくわけではない。中央教育審議会教育課程部会の答申において「表現によって活動や体験を振り返るといった思考と表現の一体化という低学年の特質を生かした指導が行われていない」ことが指摘されている。そこで本研究会議では気づきの質を高め、主体的に次の活動に向かう子どもの姿を目指し、体験活動と表現活動を適切に位置付け、それらが相互に作用する授業づくりを研究することとした。

## II 研究の内容

### 1 体験活動と表現活動の位置付け

単元の中に体験活動と表現活動を相互に位置付けていくことで、子どもの気づきの質を高めていけると考えた。表現することは、生み出した気づきを自覚することになる。自覚された気づきによって考えを深め、新たな気づきを生み出す。さらに、次の自発的な活動を誘発し、学習活動が連続的に発展していくと考えた。

### 2 子どもが主体的に

#### 次の活動に向かう表現活動

体験活動と表現活動が相互に作用するためには、相手意識や目的意識のある必然性を伴った振り返りが必要である。また、それは子どもの発達や思いに応じた表現活動でなくてはならない。子どもの意欲が次の活動へと向かっていくための振り返りの位置付けや振り返りのさせ方とともに、単元を貫く手立ての工夫について検討していくこととした。

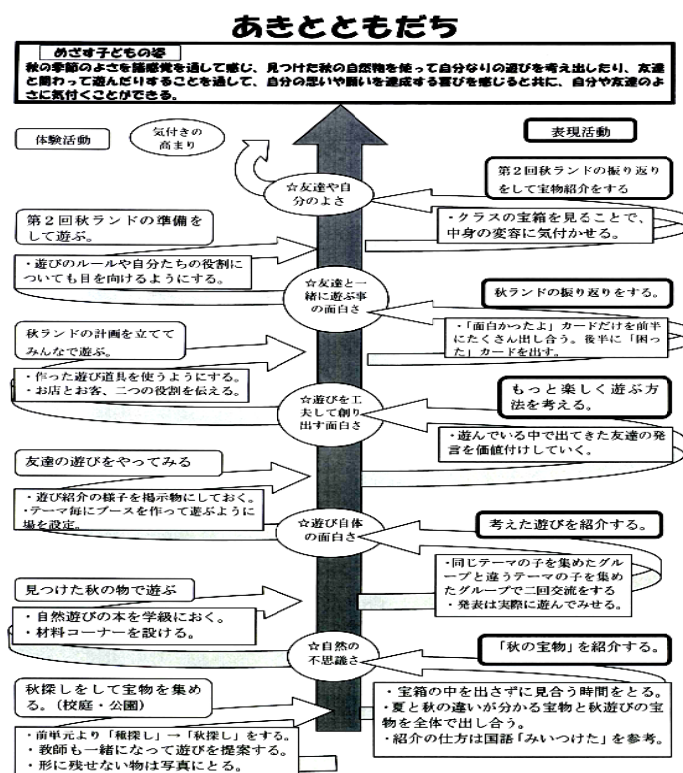


図1 気づきの高まりが見える単元構想図

### 3 検証授業

#### (1) 授業の視点

「気付きの質を高める」ために体験活動と表現活動を相互に位置付けることは、子どもの思いや願いを高め、次の活動への意欲を喚起することにつながると考え、単元全体の組み立てを構想し、目指す子どもの姿を設定した。さらに、体験活動と表現活動をつなげ、相互に作用させるためには「振り返りの位置付け」「振り返りカードの工夫」また「単元を貫く手立て」が必要であると考え、着目児童の姿を見取りながらその有効性を検証した。

#### (2) 検証授業 あきとももだち

##### ①単元目標

身近な場所で自然を観察したり、遊んだりしながら四季の変化や季節の特徴を捉えさせ、集めた秋の自然物を使い、遊びや遊ばしに使う物を自分なりに工夫して作り、その面白さや不思議さを味わい、友達と関わる中で、自分や友達によさに気付くようにする。

##### ②指導と指導の計画 (1年) 内容(5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び

小単元名 (時数)	主な学習活動 (気付きの質を高める体験活動と表現活動)	体験活動と表現活 動の位置付け	評価規準 (評価方法)
秋さがしをししよう (4)	<p>【小単元目標】身近な場所の自然を観察し、四季の変化や季節の特徴を捉えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大切にしてきたあさがおに、種ができたことを見つける。</li> <li>○校庭や公園の秋探しをする。 (見つける、探す) <b>(宝箱がいっぱい。みんなはどんなものを集めたかな。)</b></li> <li>○集めた「秋の宝物」を見せ合い紹介する。 (関わる、伝える、表現する、交流する)</li> </ul>	<p>体験</p> <p>振り返り</p> <p>表現</p>	<p>関①身近な自然に目を向け、関心をもって関わろうとしている。</p> <p>気①身近な場所の自然の変化や季節の特徴に気付いている。</p> <p>思①自然に親しみ、自分との関わりを振り返り、カードに書いている。</p>
見つけた秋で、遊ぼう (6)	<p>【小単元目標】集めた秋の自然物を使い、遊びや遊ばしに使うものを自分なりに工夫して作り、楽しむことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見つけた秋で遊んでみる。(関わる、遊ぶ、試す) <b>(もっと、遊びたいな。作ってみたいな。)</b></li> <li>○もっと楽しく遊ぶ方法を考え、交流する。 (想起する、遊ぶ、作る、試す)</li> <li>○考えた遊びで友達と一緒に楽しむ。 (交流する、遊ぶ、試す、手直しする) <b>(みんな、遊ぶと楽しいね。)</b></li> </ul>	<p>体験</p> <p>振り返り</p> <p>表現</p> <p>体験</p> <p>振り返り</p>	<p>関③集めた自然物を使って、友達と関わろうとしながら遊びや遊ばしに使う物を作ろうとしている。</p> <p>思②身近な自然物を選び、遊びを考え、さらに楽しくおもしろくなるように工夫している。</p>
みんなで秋を楽しもう (6)	<p>【小単元目標】自然物の面白さや不思議さを味わい、友達と関わって遊ぶ中で自分や友達によさに気付くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「秋のお祭り」について話し合う。(話し合う、考える)</li> <li>○「秋のお祭り」で遊ぶ。 <b>(もう一回やりたいな。もっと、お客さんを集めたいな。)</b></li> <li>○2回目の「秋のお祭り」について話し合う。 (考える、話し合う、カードを見合う、試す)</li> <li>○「秋のお祭り」で遊ぶ。(2回目)(遊ぶ、交流する、試す、手直す) <b>(宝箱に、楽しかったカードが増えたよ。うれしいな。)</b></li> <li>○「秋のお祭り」の遊びの感想を交流する。 (伝え合う、交流する、カードを交換する)</li> </ul>	<p>表現</p> <p>体験</p> <p>振り返り</p> <p>表現</p> <p>体験</p> <p>振り返り</p> <p>表現</p>	<p>思③遊びの約束やルールなどを考え、遊びを創りだしている。</p> <p>関③友達と関わりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。</p> <p>思④遊びを工夫したり、友達と関わって遊んだりしたことを振り返り、カードに表している。</p> <p>気③自然を使って遊ぶことの楽しさや不思議さに気付いたり、友達と関わって遊んだりする中で、自分や友達によさに気付いている。</p>

### ③着目児童の気付きの質の高まり

#### A児

##### 気付きの質を高めるための手立て

着目児童Aは、友達と一緒に活動していても関わりが薄く、自分の気持ちを表すことも苦手としている。体験活動を振り返ることを通して、友達と一緒に活動することの楽しさと、自分の遊びのよさに気付く姿を期待している。

クリスマスチーム  
の [ ] さんしゃべりが  
たとかおしゃくさんにえら  
びせてくれてくれるし  
すごいよ。

[ ] さんすりかた  
をいしてくれてありがとう

**表現活動**  
思考を深め、気付きを自覚するための  
振り返りの位置付けと工夫

[ ] さんのカードがおも  
ろいかなたちをつくっていた  
ねまたみまろ

##### 体験活動

##### 「秋のお祭りをしよう」

秋のお祭りでは、自分の  
思いを表出できず、た  
たずむ姿が最初は見ら  
れたが、お店やさんを担  
当することで、たくさん  
のお客さんに喜ばれ、説  
明の声も大きくなった。

##### 交流（振り返り）の位置付け

迷うことなく「手紙カード」を取り、  
自分のお店で楽しんでくれた友達に  
メッセージを書き込んでいた。  
「自分のお店でも楽しんでくれたか  
ら、今度は友達に手紙を書いて喜んでも  
らいたい。」と話していた。学習時間が  
終わっても、手紙カードに熱心に向か  
い、自分の思いを言葉にして伝えよう  
とする姿から、A児の思考の深まりと友  
達のよさに気付いていることを見取れた。

担任から「どうだった。」と問い  
かけられると、すぐに手を挙げ、  
満面の笑みで「楽しかった。みんな  
と遊べてうれしかった。」と自信  
をもって自分の思いを伝えていた。  
今まで、振り返りカードに書く活  
動を繰り返してきたA児は、  
自分の思いを発言するよりカード  
に書くことを楽しみにしていた。  
繰り返し見直しをもち活動をすす  
めてきた成果と言える。

A児の「秋の宝箱」にもたくさんの友達からの手紙が入っていた。どんな手紙をもらったのか、じっくりと読み、大切に作る姿から、物から人への関わり方の深まりと、友達のよさに気付く質の高まりが見られた。

#### B児

##### 気付きの質を高めるための手立て

着目児童Bは、活動にも意欲的に取り組み、振り返りの場面では次時の活動のきっかけづくりとなる発言が多い。表現活動を通し、自分の活動に満足するだけでなく、友達の活動を認める姿を期待している。

さんのせつめいの  
しがたが「すずくよかたで  
すつってたのもすずく  
たです。

**表現活動**  
思考を深め、気付きを自覚するための  
振り返りの位置付けと工夫

さんみんなしら  
しにやってくれて、すく  
うんせいしたよ

##### 体験活動

##### 「秋のお祭りをしよう」

秋のお祭りの準備では「もっとい  
っぱいつくりたい。」「全部自分で完  
成できた。」と、自分の活動のみに  
目を向けて満足していた。秋のお祭  
りの活動でも、自分のお店にお客さ  
んが来ることに自信があった。実際  
には、他のお店の工夫により、1回  
目より友達の反応が変わったこと  
に気づき、あわてて、ルールを変え  
たり、遊びの道具を作り直したりす  
る姿があった。

##### 交流（振り返り）の位置付け

Bさん、いっぱいつくって、が  
んばっていたね。」「すごいね。」  
など、友達に自分の頑張りを認  
められた。  
自分のことばかり語り続けて  
いたB児にとっては、言葉にな  
らないほどの驚きを感じてい  
た。担任に「どう思った。」と聞  
かれ、「びっくり。でもうれしか  
った。」とはにかむ姿があった。  
自分の頑張りをほめられたこと  
で、友達の思いを受けとめ、「う  
れしい。」という思いに気付く姿  
があった。

振り返り後は、友達と一緒に役割  
を分担していた。また、他のお店の  
友達のよさを認め、手紙カードに書  
き込む姿があった。体験活動と表現  
活動が相互に作用することによ  
って、友達のよさに気づき認める姿  
があり、気付きの質を高めることにつ  
ながった。

活動を振り返り気付いた自分の思いを貯めることのできる「秋の宝箱」を位置付けた。友達から自分の活動のよさやがんばったことを認められる手紙をたくさんもらうことで、活動を振り返り、自分や友達のよさに目を向け、相手の活動や思いを認める手紙カードを送った。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 体験活動と表現活動の位置付け

体験活動と表現活動を相互に作用するように位置付けたことで、体験活動を通して子どもの中に生まれた思いや願いが表現され、無自覚だった気づきが自分の中で明確になる姿が見られた。また、単元を通して「宝箱に秋の宝物を集める」という活動をしたことで、自分の見つけた秋の宝物に対する嬉しさや楽しさが徐々に高まっていくこととなった。

A児は、最初は秋の遊びを自分だけで楽しんでいて、表現活動として、秋の遊びを伝えるためのお店を開いたとき、そこに来た友達と一緒におもちゃを作るといった方法を考え、たくさんの友達を喜ばせることができた。友達から「楽しかった。もっと遊びたい。」などの言葉をもらい、喜んでもらえることの嬉しさに気付くことができた。友達との関わりが薄いB児は、ある友達から認められたことをきっかけに、自分も友達のよさに目を向け始めた。友達に向けての手紙を書くといった表現活動を位置付けることで、遊びを通して気付いた友達のよさをたくさん書き、自分から進んで渡すことができた。

#### 2 子どもが主体的に次の活動に向かう表現活動

体験活動と表現活動を相互に位置付けた単元構成は、気づきの質を高めるために非常に有効であった。それを支えた要因として、振り返りカードの工夫が挙げられる。子どもが自ら振り返りたくなるよう、様々な種類のカードを準備したり、書く内容によって色別にしたりした。また、カードの裏側に表情を書いておき、文字以外でも自分の活動を振り返ることができるようにした。中でも「困ったカード」は非常に有効であった。子どもが感じた困ったことは、些細なことでも教師が丁寧に取り上げ、全体で話し合う時間を設けることによって、必然性のある振り返りとなり、次の活動で自分がどのようにしたらよいかを意識することにつながっていった。

#### 3 今後の課題

子どもの気づきの質をさらに高めていくためには、その授業のねらいに沿った視点をもって、一人一人の子どもの気づきを丁寧に見取り、価値付けていく必要がある。授業の中で適切に見取り、それをどのタイミングでどのような言葉で問いかけるのかは今後も考えていく必要がある。

最後に、研究を進めるにあたり、適切なご助言をいただきました生活科・総合的な学習の時間教育研究会長、研究員所属校の校長先生はじめ、教職員の皆様に心から感謝し厚くお礼申しあげます。

#### 【参考文献】

- |                            |       |       |
|----------------------------|-------|-------|
| 田村 学『今日的学力をつくる新しい生活科授業づくり』 | 明治図書  | 2009年 |
| 『小学校学習指導要領解説 生活編』          | 文部科学省 | 2008年 |
| 『初等教育資料平成25年12月号』          | 文部科学省 | 2013年 |

#### 【指導助言】

植平 公子 川崎市小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究会長(川崎市立稗原小学校長)

#### 【研究協力者】

古里 侑香子 吉村 あかね 林 もも美 川崎市立長沢小学校